

森

の通信

宮崎県総合博物館  
発行日/平成12年1月15日発行/宮崎県総合博物館 〒880-0053 宮崎市神宮2丁目4番4号TEL (0985)24-2071  
<http://www.pref.miyazaki.jp/museum/>

特別企画展

# みやざきの<sup>わざ</sup>技

—木・竹・草の民具—

平成12年1月22日(土)～2月20日(日)

入館料 大人/300(200)円 高大生/200(100)円 小中生/100(50)円  
※( )は20名以上の団体料金。なお、常設展入館は別途料金となります。

開館時間 午前9時から午後5時まで(入館は午後4時30分まで)

休館日 毎週月曜日



カルイ



メンバ



ツツラテゴ

民具は、人々の生活を知るうえで、欠くことのできないものであり、自然の中で生きぬいてきた人々の生活を物語る貴重な文化財です。これらの民具からは、人々の生活の知恵や自然との関わりをさぐることができます。

本展では、宮崎県で木・竹・草など身近な素材を利用してつくられた民具に焦点をあて、素材を見極める技、つくる技などの知恵や工夫を見つめなおそうとするものです。

今回は、さまざまな素材・工程ごとの製作用具・完成した製品の数々を写真や映像などとあわせて紹介します。また、素材に直接触れたり、ミニ桶を組み立てたりする体験コーナー・技の実演【1/30(日) 背負い籠づくり、2/6(日) 弁当箱づくり、2/13(日) みそ桶づくり】・だれにでもできる「竹ひご編み」の体験講座【1/29(土)、2/12(土)】を設けます。



# 紀宮清子内親王殿下ご来館

平成11年10月22日午後、紀宮様が、本館の自然史展示室と開催中であった特別企画展「大鳥展」を御覧になられました。展示室では、タブの老木やヤドリギ、オオスズメバチ、マンボウに興味をしめされ、花の香りも楽しまれました。また、「大鳥展」では、山階鳥類研究所の研究員をなされたこともあって、熱心に鳥の標本などを御覧になりました。



博物館に到着された紀宮様▲

◀自然史展示室を御覧

## 歴史講座

### 「親子で探訪 西都原古墳群!2」

コスモスの咲き誇る抜けるような秋晴れのもと西都原古墳群を探訪しました。今回は県教育委員会が発掘調査中の100号前方後円墳をはじめ171号方墳、鬼の窟古墳、小円墳群、265号墳などを巡りました。3世紀の後半に造られたとの説もある西都原古墳群でも初期古墳に属する100号前方後円墳（柄鏡型古墳）では、掘り出されたばかりの墓石のようすをつぶさに観察できて感動！鬼の窟古墳では巨石で組まれた横穴式石室の中に入って感激！……の連続でした。地元の西都市をはじめとして宮崎市近郊、遠くは椎葉村から参加されたご家族や、当日の飛び入り参加もあって和気あいあいの現地講座でした。



▲鬼の窟古墳前で



## 展示解説員の声



お客様から展示物について、いろいろな質問をされます。その中で答えられない質問が多々あります。展示解説員としてまだまだの私ですが、そういった時、改めて展示物を見直し勉強させられます。

毎日、展示室の中で何気なく、当然のように展示物を見ていますが、お客様は、私たちとは違った観点から見られ展示物の名前一つにしても、なぜこういう名前なのか、どういふ由来があるのかというように深く追求され興味を持たれます。また、何回か来館されているお客様も新しい発見をされて「また勉強しに来ます。」といわれる方もいらっしゃいます。そんな時、少しでもお役に立てるよう日々勉強することは大切です。また展示物だけではなく、例えば、ごみは落ちていないかなど博物館全体を大きく見ることも仕事の一つだと思います。

一人でも多くのお客様が来館できるように、開かれた博物館を目指して日々頑張りたいと思います。(本部幸子解説員)



古代生活体験館より

## 遠足で古代食作り

11月26日(金)、高岡町立穆佐小学校6年生が古代食作りに挑戦しました。自ら火を起こし、石のナイフで持参の材料を切り、縄文土器でいのしし鍋(実は豚)を作りました。あわせて、ドングリクッキーも作りました。味は上々でした!

【案内: 古代食作りは、40名位まで可能、3~4時間】



### 受講生募集

平成12年2月26日(土) AM10:00~PM2:00

古代食研究家永山久夫氏による「古代食グルメ入門」

【問い合わせ先: 古代生活体験館 0983-43-5002】

## 西都原 資料館より

さる10月30日(土)、西都原資料館にて博物館講座「西都原周辺の歴史と民俗~国衙発掘の歴史を追って~」が開かれました。展示室の一角に設けられた教室で、受講者は古代の役所(国衙)跡が発掘されるに至った過程や最新の発掘情報に触れるとともに、ミニ古代瓦(布目瓦)の製作にも積極的に取り組み、古代の人々の知恵を体感されました。

また、11月9日(火)からは、「銀鏡白太鼓踊展」を行い、西都市の銀鏡地区で踊られていた3つの白太鼓踊の中で、唯一受け継がれた「銀鏡大白」の太鼓や衣装などを数多くの方々に見ていただきました。



博物館講座「西都原周辺の歴史と民俗~国衙発掘の歴史を追って~」の受講風景▲

「銀鏡白太鼓踊展」の展示状況▼



